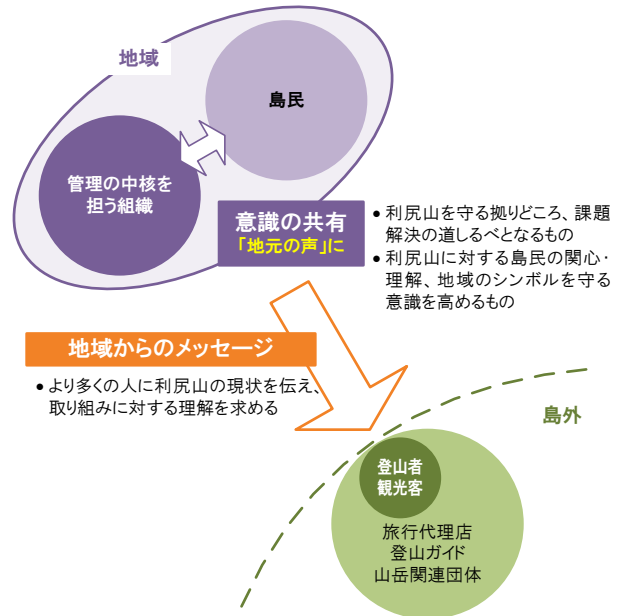


## 「利尻山登山利用のあり方」のとりまとめについて

### とりまとめにあたって基本となる考え方

- 「利尻山の自然を守ることを最優先に登山利用を続けていく」というメッセージをこめる。
- 多くの島民の意向をふまえた、利尻山に対する「地元の声」「地域のビジョン」であり、地域からのメッセージとして対外的に発信されていくものである。
- 今年度は、島民の意見を取り入れるための『利尻山登山利用のあり方（案）』（たたき台）を作り上げる。わかりやすく表現されたものが必要である。
- 身近な利尻山を今一度見直すよい機会。利尻山と長く付き合っていくための自主的な活動が起きれば。
- 将来にわたって議論が続けられ、活用されていくべきものである。



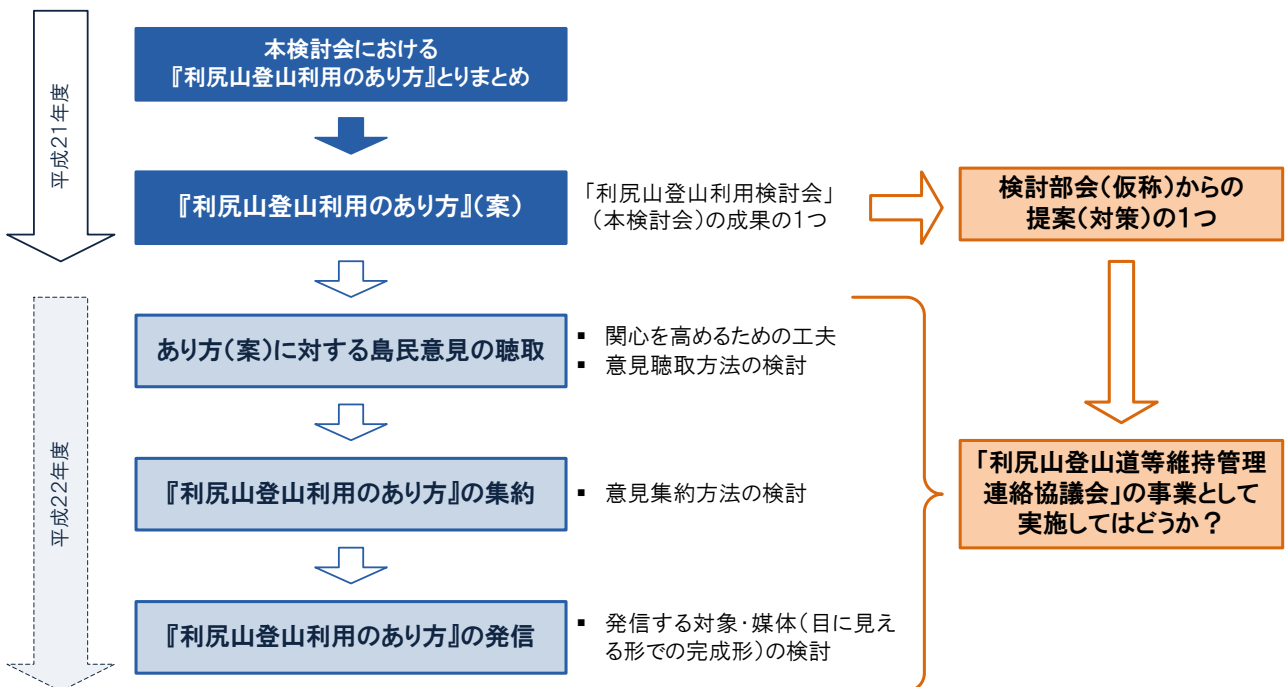
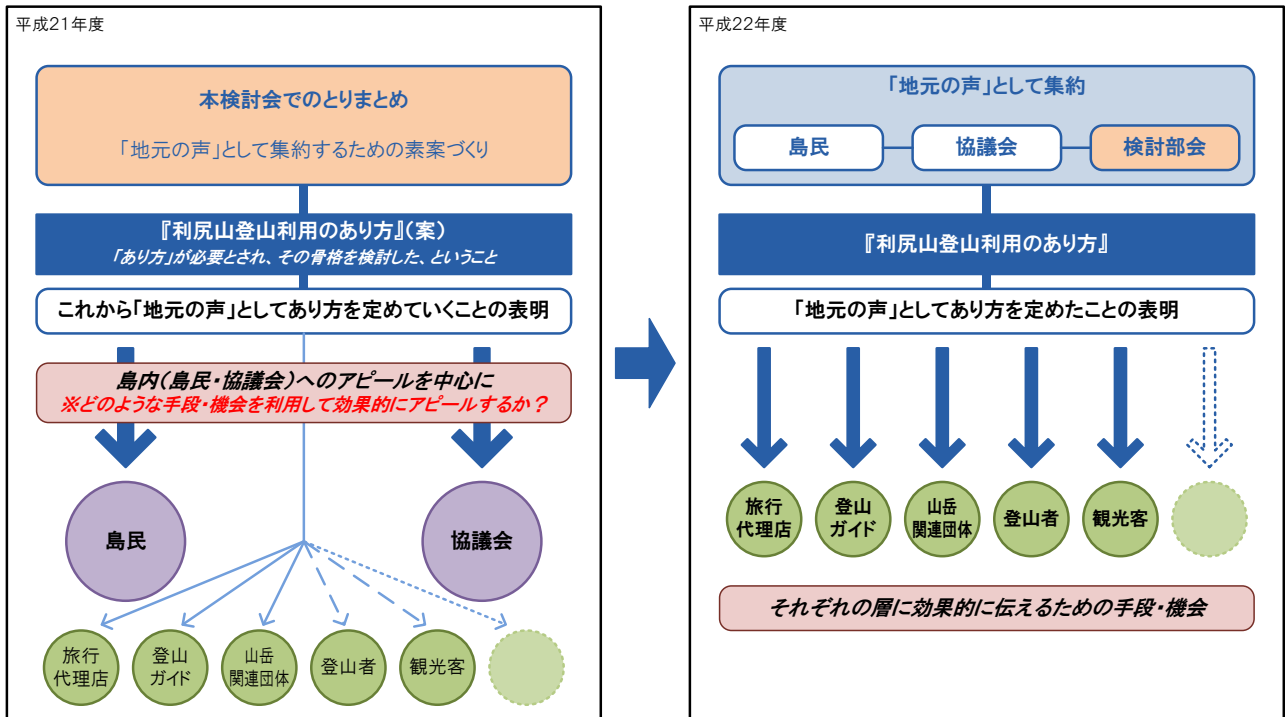
### 「利尻山登山利用のあり方」の構成・表現

- コンセプトを表す「あり方」と具体的な対策を整理した「取り組み」に再整理。
- 「あり方」における具体的な対策の記述は、「あり方」のイメージをより明確に伝えるための実施例程度のものとする。

※資料 2-3pp 参照

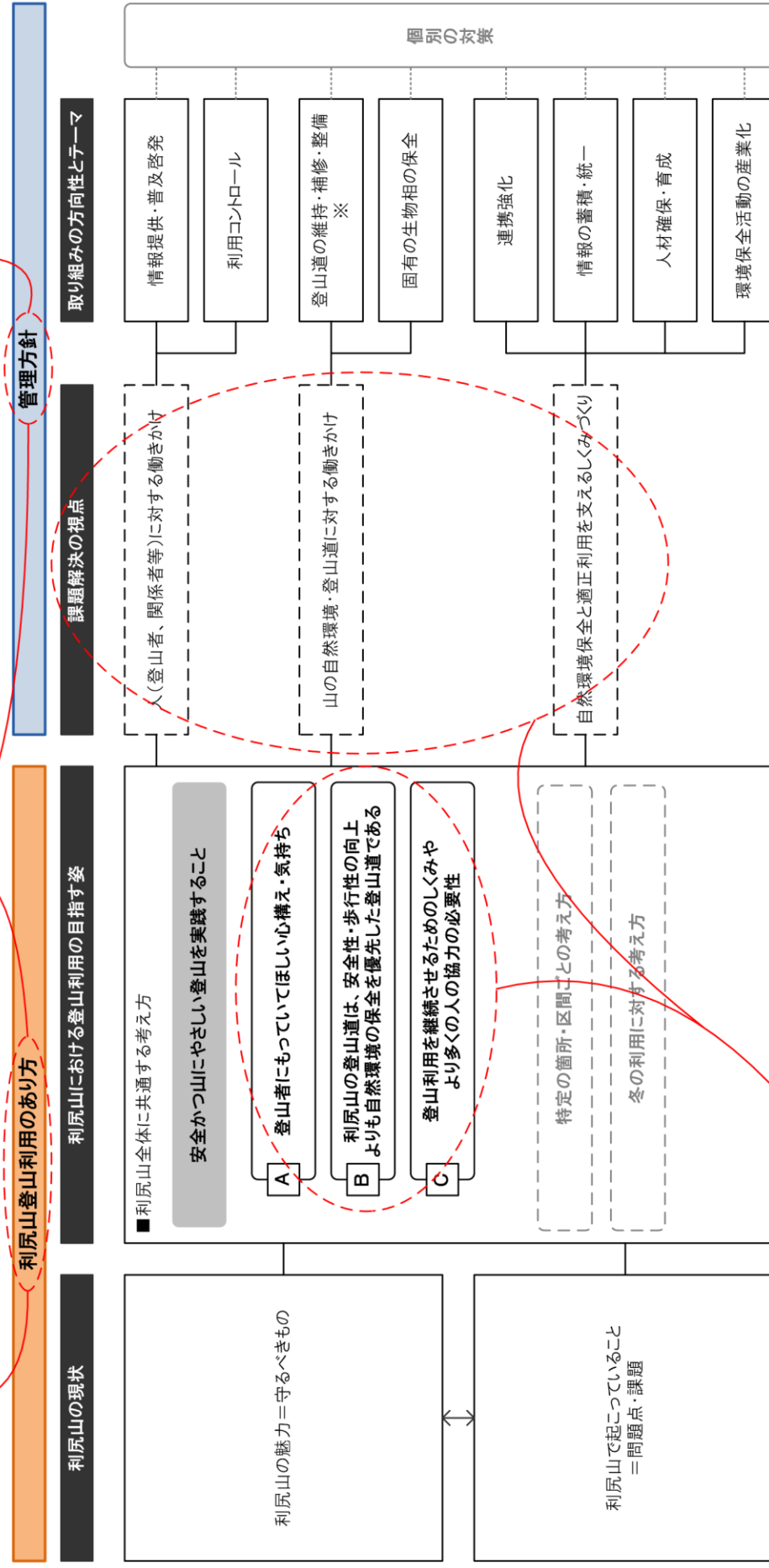
「利尻山登山利用のあり方」を「地元の声」とするために

- 今年度とりまとめる「利尻山登山利用のあり方（案）」は、より多くの島民の意見を集め、「地元の声」として集約していくための「たたき台」である。
- 「地元の声」として集約していくためのプロセスを検討しておくべきである。
- 平成22年度に「利尻山登山道等維持管理連絡協議会」が実施する対策案の1つとして提案してはどうか？検討部会（仮称）が実施する活動の1つとも考えられる。



「利尻山登山利用のあり方」・「管理方針」の構成（第1回検討会時）

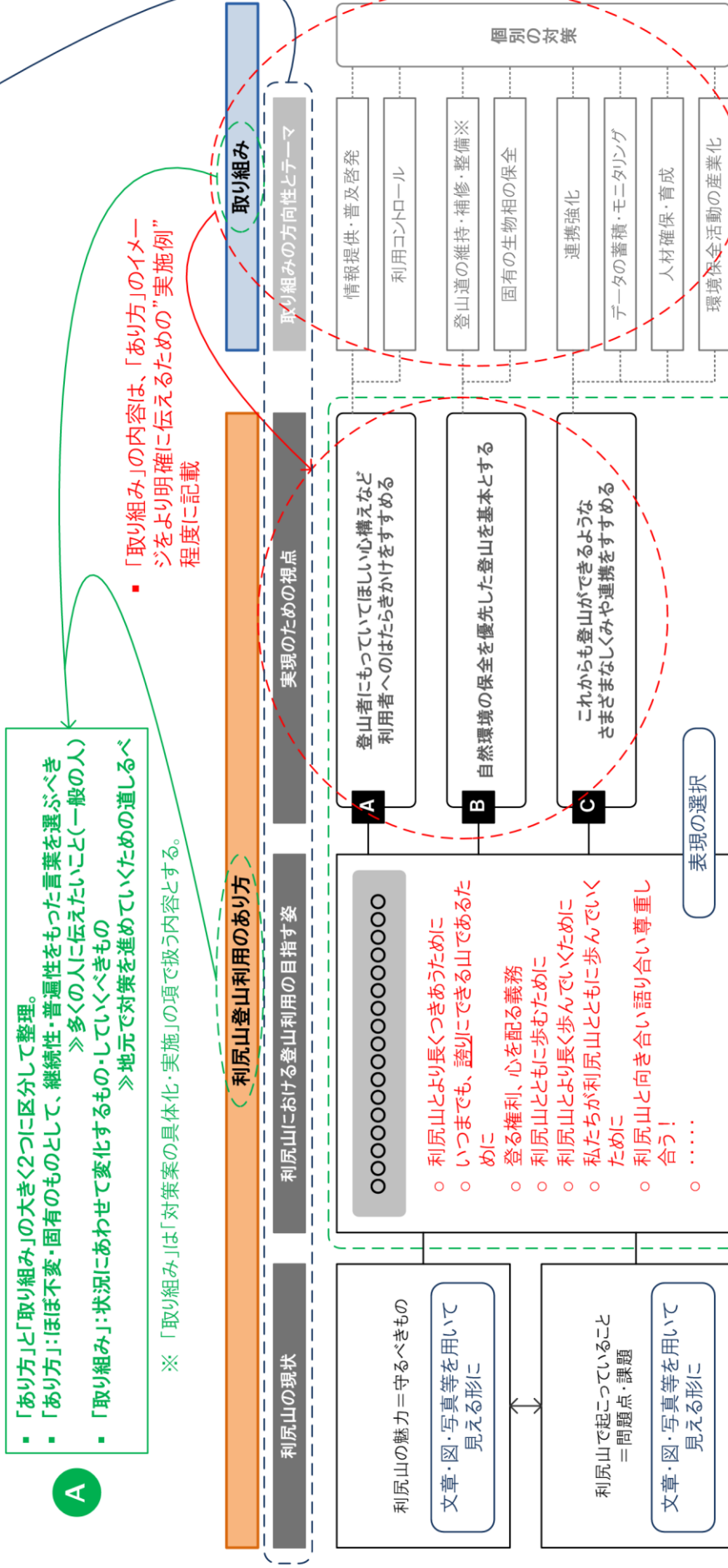
- A** はっきりした区分がないと、難しい組織に感じてしまうところがある。
- 「あり方」=【コンセプト】、「管理方針」=あり方に対して進めていく【取り組み】と整理しては？
- 「あり方」・「方針」という言葉には、ある程度の継続性・普遍性を感じさせる力がある
- 町民意識的な大枠なもの
- 管理に関する計画書の呼び名は混乱を招く？個別の対策を「管理方針」と呼ばないほうがよい
- 他の呼び名でもかまわない



- B** この部分を「方針」らしく整えるレベルで抑える
- もう少し具体的な内容が伝わるような表現に

※「登山道の維持・補修・整備」の内容は、登山道整備基本計画と補完関係にあるもの

「利尻山登山利用のあり方」の構成（修正案）



- A** 「あり方」と「取り組み」の大きく2つに区分して整理。
- 「あり方」:ほぼ不変・固有のものとして、継続性・普遍性をもった言葉を選ぶべき
- 「取り組み」:状況にあわせて変化していくべきもの
- ※ 「取り組み」は「対策案の具体化・実施」の項で扱う内容とする。

- 「取り組み」の内容は、「あり方」のイメージをより明確に伝えるための“実施例”程度に記載

- 構成を整理するために設けた項目であり、実際の印刷物等の見出しにすることを想定したものではない。

- やわらかい言い回しで心にささる表現
- 具体的などのような場で、誰に対して使う表現なのかを考慮して、対象にあったものに表現を変えていくように
- 自然環境を守っていくことは、すべてに通じる
- 地域の王、自分たちの王である、という表現
- お互いを尊重しつつ、ともに長く寄り添っていきいたい
- 山を身近に感じられるような表現:「島民」よりも「山民」など
- 標語のように覚えやすい言葉
- 利尻山は島民の生活に直結している山

第1回検討会アンケート結果より  
主な修正箇所・内容